

C-37 婦人服ベイシック形ドレスにおけるゆとりに関する研究 (第7報)

福山市立女子短大

増田 茅子

目的 着用実験より得た各自オリジナル・ベイシック形ドレスパターンの示す各部の基本のゆとりの寸法とその形態を求めることを目的として既に、バスト、アームホール、シヨルガー、ネック、ウエストラインについてそれらの結果及び考察を報告した。今回は、胴部と上肢の境界線である腕付根囲線が、ドレス胴部と上肢をつつむ袖との接合線として示した結果から、主として前・後腋窩点からアームホールベース間の寸法と形態について報告する。

方法 実験方法は第1報で説明した通りであるが、今回は第6報までの結果を参考に、ベイシック形ドレス胴部に對して次の諸条件を実験前のパターンの条件として加えた。パターンのバストラインのゆとりは乳頭位胸囲寸法に10cm、胴囲に2cm、アームホールレベルラインは第2報の結果にもとづき採寸寸法上部胸囲からパターンのアームホール寸法を計算し、更にこの寸法からアームホールレベルラインの位置を定めた。袖に對する実験前のパターンの条件は袖山の高さをパターンのアームホール寸法 $\times \frac{1}{3}$ に、袖巾は上腕囲に3.5cmのゆとりを加えた。被験者数60名平均年令19才。

結果 パターンのアームホール寸法 $\bar{x} = 38.9 \text{ cm}$ $s = 2.2 \text{ cm}$, N.P.からアームホールレベルラインまでの寸法 $\bar{x} = 19.1 \text{ cm}$ $s = 1.22 \text{ cm}$, 袖巾 $\bar{x} = 31.09 \text{ cm}$ $s = 1.9 \text{ cm}$, 袖山の高さ $\bar{x} = 14.06 \text{ cm}$ $s = 0.71 \text{ cm}$, 腕付根囲 $\bar{x} = 37.36 \text{ cm}$ $s = 2.08 \text{ cm}$, 上腕最大囲 $\bar{x} = 27.21 \text{ cm}$ $s = 2.23 \text{ cm}$, 袖丈 $\bar{x} = 51.08 \text{ cm}$ $s = 2.32 \text{ cm}$ であるが、前・後腋窩点からアームホールベースまでの胴部及び袖のパターンの形態は相互に大変関係がある。